

顧客の期待に応え、会社と社員を守るための コンプライアンス基礎セミナー

1. セミナーのねらい

- (1) コンプライアンスの意味を知り、企業にとって、何故その体制が必要なのかについて学びます。
- (2) 社員一人ひとりが把握しておかなければならないコンプライアンスについての基礎知識を学びます。
- (3) コンプライアンスの基本的体制とその構築方法について学びます。

2. セミナーの進め方

- ・研修時間並びに進め方についてはご相談とさせていただきます。

3. セミナーの内容

時 間	項 目	内容と進め方
	自己紹介 1. コンプライアンスとは何か (1) コンプライアンスの意味とその要請の背景 (2) コンプライアンス経営要請の背景と全体像 (3) コンプライアンスと関連法令 (4) コンプライアンスの基本体制と組織	・「コンプライアンス」はすべての企業にとって最重要課題です。なぜ、コンプライアンス体制が必要なのか。その体制が必要なのか、その体制確立のためには、具体的にどのようにしたら良いかを、講義とワークを通して考えます。
	2. カスタマーコンプライアンスとは (1) カスタマーコンプライアンスの重要性 (2) コンプライアンス体制を構築するには (3) PL法、消費者保護法をはじめとする法令	・「コンプライアンス」の中で最も重要なのが、「カスタマーコンプライアンス(顧客の期待に応えること)」です。 ・なぜ、顧客の期待に応えることが大切なのか、応え方の組織・仕組みをどうすれば良いか、具体的にどのようにすれば応えられるか、について講義とワークを通して考えます。

3. セミナーの内容(続き)

時 間	項 目	内容と進め方
	3. 社員にとってのコンプライアンス (1) 働くうえでの基本となる労働基準法 (2) 労働条件に関する取り決めと規制 (3) セクハラ・パワハラへの対応は？ (4) 安全と健康を守るには	・「コンプライアンス」が自らのテーマであることを認識していただきます。 ・社員が気持ちよく働ける職場をつくるために企業はどうすれば良いか。また、従業員同士がさわやかに働くには、どのような点に注意すれば良いかを考えます。
	4. 社会に対するコンプライアンス (1) 地域社会とコンプライアンス (2) 環境とコンプライアンス	・企業も「社会」の一員です。地域社会で「あの会社は良い会社だ」と言われるようではなくては共生はできません。 ・企業が「社会」と共存共栄していくためにはどうすればよいかを講義とワークにて考えます。
	5. コンプライアンスにおける今後の課題 (1) コンプライアンス経営に対する姿勢 (2) 法に対し、日本型から欧米型へシフトする (3) 企業倫理の環境整備 (4) コンプライアンス意識を社内に徹底するには	・コンプライアンス体制構築に向けた今後の取り組みについて、グループワークで考え、まとめます。 ・コンプライアンスへの当事者意識醸成への第一歩とします。

備考:状況によっては、内容・進め方を変更する場合があります。